



千葉市稲荷町

稲荷神社虫干し神事

稲荷町有文書

千葉県船改め所五田保湊文書

写真記録書

平成 29 年 7 月

市原の古文書研究会

〔産業〕

五田保船數書上帳並びに船鑑札控

明治四年〜明治六年

八九 船數取調書上帳 下総国千葉郡千葉寺村之内 字 五田保 (冊)

稻荷丸

百式拾石積

一 五太刀船老艘

乗組四人

一 十石積

一 押送船老艘

同 漁船老艘

一 小漁船老艘

一 小漁船老艘

一 小漁船老艘

一 五太刀老艘

一 押送船老艘

一 小漁船四艘

下総国千葉郡千葉寺村内

字五田保

古川 佐

平 船

直 乘

君 塚 茂 三 郎

同 金 沢 久 左 衛 門

同 金 沢 八 郎 兵 衛 門

同 花 沢 金 七

同 金 沢 半 七

佐倉県 御役所

稻荷丸百式拾石積

一 五太刀船老艘 長丈丈六尺 幅丈

御鑑札面 但永式貫四百四拾八文

午八月 御鑑札面

一 押送船老艘 長丈丈七尺五寸 幅七尺五寸

一 小漁船老艘 長丈丈八尺 幅四尺三寸

一 小漁船老艘 長丈丈八尺 幅三尺九寸

一 小漁船老艘 長丈丈八尺 幅三尺九寸

一 小漁船老艘 長丈丈八尺 幅三尺九寸

一 五太刀老艘 長丈丈八尺 幅三尺九寸

一 押送船老艘 長丈丈八尺 幅三尺九寸

一 小漁船四艘

下総国千葉郡

千葉寺村之内

字五田保

古川 左

平 船

直 乘

君 塚 茂 三 郎

同 金 沢 久 左 衛 門

同 金 沢 八 郎 兵 衛 門

同 花 沢 金 七

同 金 沢 半 七

前書御改ニ付書上仕請印奉差上候処相違無御座候以上

明治四辛未年

九月十九日

右村

百姓代

組 頭

君 塚 辰 之 助

右村 百姓代

組 頭

君 塚 辰 之 助

佐倉県 御役所

九〇 船鑑札控 明治六年九月改 下総国千葉郡千葉寺村内五田保(冊)

所働 伝馬船

此税金式拾壹銭

〔朱書〕 〔朱書〕

所働 伝馬船

此税金式拾壹銭

〔朱書〕 〔朱書〕

所働 伝馬船

此税金式拾壹銭

〔朱書〕 〔朱書〕

所働 伝馬船

此税金式拾壹銭

〔朱書〕 〔朱書〕

所働 伝馬船

此税金式拾壹銭

〔朱書〕 〔朱書〕

所働 伝馬船

此税金式拾壹銭

〔朱書〕 〔朱書〕

所働 伝馬船

此税金式拾壹銭

〔朱書〕 〔朱書〕

千葉寺村御達報

式挺立茶船

此税金五拾四銭四厘

式挺立茶船

此税金五拾四銭四厘

式挺立茶船

此税金五拾四銭四厘

式挺立茶船

此税金五拾四銭四厘

式挺立茶船

此税金五拾四銭四厘

式挺立茶船

此税金五拾四銭四厘

式挺立茶船

此税金五拾四銭四厘

式挺立茶船

此税金五拾四銭四厘

式挺立茶船

此税金五拾四銭四厘

式挺立茶船

此税金五拾四銭四厘

式挺立茶船

此税金五拾四銭四厘

式挺立茶船

此税金五拾四銭四厘

式挺立茶船

此税金五拾四銭四厘

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

〔朱書〕 〔朱書〕

積荷 芋式百俵也

十月十一日出帆

記

稲荷丸

積石百五拾石

乗組人 直乗船頭外三人

積荷 〆粕四百廿俵

魚油五拾四本

十月十二日出帆

十月十一日入
押送船

乗組三人

いも七拾俵積

船客無之

国元向出帆

十月十三日

十月十一日入
押送船

乗組 三人

積荷いも五拾俵

送状老通

船客無之

国元へ向出帆

十月十三日

十月十三日入
正一位丸

佐平船

積石七拾石

乗組直乗船頭外式人

積荷 芋百俵積

船客無之

国元行

安房国平郡
不入斗村

渡辺彦七舟

十月十四日入
順徳丸

積石五拾石

乗組四人

芋百俵積

国元行

十月十四日出帆

十月十四日入
押送

乗組人三人

安房国平郡
不入斗村

九鬼清三郎船

房州平郡久枝村

小沢権兵衛舟

四郎兵衛乘

房州平郡

不入斗村

佐野武左衛門船

積荷芋百俵積

十月十五日出帆

十月十九日入
廿日出帆
押送船

乗組三人

積荷芋百四拾貳俵

国元行

十月廿二日入
押送船

同日出

乗組人三人

芋百俵也

国元行

十月廿二日入
五十俵船

長式丈八尺三寸

巾七尺五寸

積荷芋八拾俵也

6 千葉寺村御達報

今船

天羽郡竹ヶ岡村

鈴木次兵衛船

朝倉源右衛門乘

安房国平郡
不入斗村

川名文蔵

伊豆国那賀郡
田子村

山本平蔵船

乗組三人

同日出帆 国元行

十月廿二日出帆
稲荷丸

積石百五拾石

乗組直乗船頭外三人

積荷〆粕四百拾四俵

魚油四拾八本

東京行

十月廿三日入 廿四日出帆
一 福寿丸

乗組五人

六拾石積

積荷芋百五拾俵

国元行

十月廿八日出帆
清正丸

当村

古川佐平舟

房州長挾郡
天津村

四井与四郎船

直乘

駿州有度郡
清水町

池田甚三郎船

四〇九

乗組人四人
石積六拾九石壹斗
積荷芋貳百廿俵

十一月二日
押送船

乗組 三人
積荷 芋百五拾俵
神奈川行

直乘

十一月九日
押送船

乗組 三人
神奈川行

安房国平郡
不入斗村

渡辺彦七

安房国平郡
久枝村

井野佐左衛門

安房国平郡
不入斗村

渡辺彦七

十一月四日
押送船

乗組 三人
芋七拾俵積
国元行

十一月四日
順徳丸

乗組 四人
芋百四拾俵積
国元行

安房国
不入斗村

渡辺彦七船

十五日出帆

十一月十八日入
正一丸

乗組 四人
積荷芋百三拾俵
神奈川行

相州三浦郡
浦郷村

蒲谷松五郎

房州久枝村

小沢権兵衛
四郎兵衛乘

積石六拾七石

乗組貳人 直乘

積荷芋百俵也

十九日出帆 米拾八俵

百拾八俵

房州長挾郡
天津村

四井与四郎舟

一同
稻荷丸

積石百五拾石

積荷之粕

材木

古川左平船

十二月三日
正一丸

積石六拾石
芋百俵之積
乗組 五人 直乘

相州三浦郡浦郷村

蒲谷
松五郎

一月八日
茶船

積石八拾石

積荷 真木 炭

日暮幸次郎船

六拾七石積
芋百俵
乗組貳人 直乘

寒川村

日暮幸次郎船

一月十一日
稻荷丸

積石百五拾石

積荷 真木 炭材

古川左平船

十二月十九日
茶船

積石八拾石
乗組人三人
積荷横式千六百束
横浜港行

寒川村

日暮幸次郎船

十日
五拾石積

積石七拾四俵

東京港行

不入斗村

石丸
鈴木五平船

船頭平蔵

積石八拾石
積荷 真木
材木
横浜港行

6 千葉寺村御達報

月廿二日

古川左平船

一 松真木 五千束積

東京港行

第十一大区二小区

下総国千葉郡

五田保浦

船改所 君塚

九三 (水運輸会社の届)

第十一大区二小区

下総国千葉郡千葉寺村内五田保

沓ヶ所

古川 佐平[㊦]

一 水運輸会社

回漕

右之通相違無御座候以上

明治七年八月

但安政度創立

右村 副戸長

君塚 茂八[㊦]

千葉県令 柴原和殿

出入船名、輸送物資書上帳

九四 輸出入物品地名艘舟書上控

明治十一年一月ヨリ

下総国千葉郡千葉寺村五田保河岸

下総国千葉郡千葉寺村五田保河岸

記

明治十一年一月中輸出入地名物品表

出帆船舶之數

形本 日 五拾石以上

八艘

入津船舶無之

陸揚荷物無之

積出荷物 數量 原 価 地名

材木 三四拾六束 原価 六拾六円 東京輸送 同所ノ需用

戸 八百拾六本 原価百三十五円六十銭 右同断

材木 百廿五束 同 九拾四円五拾銭 横浜輸送 同所ノ需用

炭 六百四拾九俵 同 千八拾五円 東京輸送 同所ノ需用

炭 千百俵 同 九拾壹円六十銭 右同断

右之通相違無之候以上

第拾壹大区四小区

千葉郡千葉寺村

君塚辰右衛門

明治十一年四月十一日

千葉県令柴原和殿

明治十一年二月中輸出入地名物品表

出帆船舶之數

形本 日 五拾石以上

五艘

入津船舶無之

陸揚荷物無之

積出荷物 數量 原 価 地名

一 戸 二百六拾本 原価百廿三元五拾銭 東京輸送 同所ノ需用

一 材木 四百五拾四束 同 同所ノ需用

戸 四百九拾六本 同 同所ノ需用

材木 七百五十四束 同 同所ノ需用

粕 百三拾五俵 同 四百五拾円 東京輸送 同所ノ需用

炭 六百俵 同 五拾円 右同断

第拾壹大区四小区

千葉郡千葉寺

君塚辰右衛門

明治十一年二月十一日

千葉県令柴原和殿

明治十一年三月中輸出入地名物品表

出帆船舶之數

形本 日 五拾石以上

拾壹艘

入津船舶無之

陸揚荷物無之

陸揚荷物無之

積出荷物 數量 原 価 地名

一 戸 百四拾本 原価四百九拾八円三十三銭 東京輸送 同所ノ需用

一 材木 二千五十束 同 同所ノ需用

一 粕 四百六拾三俵 原価千七拾円 右同断

一 炭 五百俵 同 同四拾壹円 右同断

明治十一年四月中輸出入地名物品表

千葉寺村御達報

明治十一年一月中輸出入地名物品表

出帆船舶之數

形本 日 五拾石以上

八艘

入津船舶無之

陸揚荷物無之

積出荷物 數量 原 価 地名

材木 千八百五拾束 原価 五百七拾五拾銭 東京輸送 同所ノ需用

戸 八百七拾本 同 五百円 右同断

炭 貳百五拾表 同 九拾八円 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

炭 千二百俵 同 同 右同断

同年七月中右同断

形本五拾石以上

八艘

右同断

右同断

材木

千百廿束

原価四百五拾円八拾二銭

横浜輸送
同所商家需用

一戸

千三百本

同 三百五拾六円廿五銭

東京輸送
同所商家需用

一粕

同 貳百四拾七俵

同 同所商家需用

同年八月中右同断

形本五拾石以上

八艘

右同断

右同断

材木

千五百束

原価 五百円三銭

東京輸送
同所商家需用

一戸

千五百束

同 五百三拾七円五十銭

右同断

一粕

三百九十九俵

同 五百三拾七円五十銭

右同断

右は本年三月ヨリ八月中積出荷物数量原価地名物品表相違無之候也

第拾巻大区四小区

千葉郡千葉寺村

用掛

君塚 辰右衛門

明治十一年九月九日

千葉県令柴原和殿

明治十一年九月中輸出入地名物品表

下総国千葉郡千葉寺村

出帆船日 本形廿艘

入津船舶無之

五田保河岸

積出荷物百貳拾壹俵

材木 九百廿五束

戸 五百七拾束

芋 千五百俵

此原価六百三拾五円也

内訳

一 粕 百貳拾壹俵 原価百四十五円 上総九十九里村々

一 材木 九百廿五束 上総山郡内村々

一 戸 五百七拾束 同貳百七拾六円

武謝郡

一 芋 千五百俵 原価貳百拾四円 下総千葉郡村々

右は本年九月中積出荷物数量原価地名物品表相違無之候也

第拾巻大区四小区

千葉郡千葉寺村

用掛

君塚 辰右衛門

明治十二年一月十日

千葉県令柴原和殿

〔争論〕

千葉寺村と寒川村漁業境界争論につき裁許状

寛文九年(一六六九)三月に、評定所において出された裁決である。裁決の内容は、寒河村が漁業運上を納めているので、寒川村海岸で他村の者が鰻をしてよいかどうかは寒川村に決定権があるとしている。千葉寺村も海岸まで地続きの村であるから村人が鰻をする場合には入会自由である。

きさい採集についても寒川村・千葉寺村に異存がなければ以前のとおりにする、と裁決している。

評定所は幕府の最高の訴訟裁決機関であり、勘定奉行・寺社奉行・町奉行の三奉行のほかに老中一名が加って構成された。

当時の勘定奉行は、杉浦正綱(内蔵允)・松浦信貞(猪右衛門)・妻木頼熊(彦右衛門)、町奉行は島田守政(出雲守)・渡辺綱貞(大隅守)、寺社奉行は加々爪直澄(甲斐守)・小笠原長矩(山城守)で、これらの人々が署名している。

九五 (千葉寺村と寒川村海獵訴訟につき裁許状)

下総国千葉寺村と寒河村海獵訴訟之事令糺明之処寒河村ハ漁獵之運上従先規地頭江取来候間遠国之者獵為致候義寒河村可為支配但千葉寺村も海辺迄地津々候間自分ニ獵いたし候義ハ可為入会又田畑こ屋しのため磯貝きさこ取候村々之義寒河千葉寺共無異儀之上は弥可為如先規右之旨絵図裏書双方江遣置処不可違失者也仍而為後鑑如件

寛文九

己酉

三月十四日

杉 内蔵

松 猪右

妻 彦右

嶋 出雲

渡 大隅

加賀甲斐

小 山城

6 千葉寺村御遠報

陸揚荷物無之

千葉寺村と寒川村境論、千葉寺村新畑論裁許状

史料九六は貞享四年(一六八七)一月の裁許状であって、史料九五の寛文九年の裁許状とも一部関連している。

千葉寺村の訴えは、寒川村が千葉寺村内にくいこんで新川を掘ったということにあった。これに対して寒川村では、八年前の高浪の結果、阿村境界の鼠川が埋り、寒川村内に流れこんだため、古い川筋を掘ったと答えている。

これについては裁許状では、川が境界になっている場合、自然の流れが境界線であるとし、新しく寒川村が掘った川を埋るよう命令し、千葉寺村側の主張を認めている。

もうひとつは、千葉寺村内新田百姓次郎右衛門と、同村佐倉藩領百姓市郎左衛門の畑境論で、次郎右衛門所有地を市郎左衛門が開墾しようとしているとの訴えである。これは絵図面を点検の結果、境界がはっきりしているということで次郎右衛門の主張が認められた。

右の二件でそれぞれ敗訴側となった寒川村の名主と千葉寺村佐倉藩領の名主は、責任を問われて入牢させられている。

九六 (千葉寺村と寒川村境論および千葉寺村百姓新畑訴訟につき裁許状)

下総国葛飾郡千葉寺村と同村佐倉領百姓新畑論并同郡寒河村境論裁許之条々

一 千葉寺村百姓申趣従先規寒川村境之儀は鼠川限り之処到去年而千葉寺村浜辺敷拾間余内へ新川掘候旨訴之



Handwritten Japanese text on a scroll, likely a list of names or titles. The text is written in vertical columns from right to left. Some legible characters include "福壽丸", "三正丸", and "一正丸".

Handwritten Japanese text on a scroll, continuing the list. Legible characters include "一正丸", "福壽丸", and "三正丸".

Handwritten Japanese text on a scroll, continuing the list. Legible characters include "一正丸", "福壽丸", and "三正丸".

Handwritten Japanese text on a scroll, continuing the list. Legible characters include "一正丸", "福壽丸", and "三正丸".

Handwritten Japanese text on a scroll, likely a list of names or titles. The text is written in vertical columns from right to left. Some legible characters include "福壽丸", "三正丸", and "一正丸".

Handwritten Japanese text on a scroll, continuing the list. Legible characters include "一正丸", "福壽丸", and "三正丸".

Handwritten Japanese text on a scroll, continuing the list. Legible characters include "一正丸", "福壽丸", and "三正丸".

傳馬船 君塚辰七
此税金五拾四匁
傳馬船 古川佐平
此税金五拾四匁
傳馬船 長谷川清次郎
此税金五拾四匁
武枝立茶船 金沢久吉
此税金五拾四匁

千葉市 稲荷町有文書

H29. 7. 9 虫干し会にて撮影

5923

武枝立茶船 金澤幸七
此税金五拾四匁
武枝立茶船 花沢金七
此税金五拾四匁
武枝立茶船 小野小彦
此税金五拾四匁
武枝立茶船 白丹甚重
此税金五拾四匁

千葉市 稲荷町有文書

H29. 7. 9 虫干し会にて撮影

34

武枝立茶船 君塚辰七
此税金五拾四匁
武枝立茶船 金沢八郎
此税金五拾四匁
茶船 古川五郎七
此税金五拾四匁
一尾立艘 山田
此税金五拾四匁

千葉市 稲荷町有文書

H29. 7. 9 虫干し会にて撮影

51

13

明治六年八月改
船鑑九控
千葉市 稲荷町有文書
H29. 7. 9 虫干し会にて撮影

傳馬船 君塚辰八
此税金五拾四匁
傳馬船 君塚辰七
此税金五拾四匁
千葉市 稲荷町有文書
H29. 7. 9 虫干し会にて撮影

Handwritten Japanese text on two pages of a document, likely a tax record or receipt. The text is written in cursive (sōsho) style.

千葉市 稲荷町有文書

H29. 7. 9虫干し会にて撮影

5942

Handwritten Japanese text on two pages of a document, likely a tax record or receipt. The text is written in cursive (sōsho) style.

千葉市 稲荷町有文書

H29. 7. 9虫干し会にて撮影

43

Handwritten Japanese text on two pages of a document, likely a tax record or receipt. The text is written in cursive (sōsho) style.

千葉市 稲荷町有文書

H29. 7. 9虫干し会にて撮影

44

Handwritten Japanese text on two pages of a document, likely a tax record or receipt. The text is written in cursive (sōsho) style.

千葉市 稲荷町有文書

H29. 7. 9虫干し会にて撮影

5936

3

Handwritten Japanese text on two pages of a document, likely a tax record or receipt. The text is written in cursive (sōsho) style.

千葉市 稲荷町有文書

H29. 7. 9虫干し会にて撮影

3A

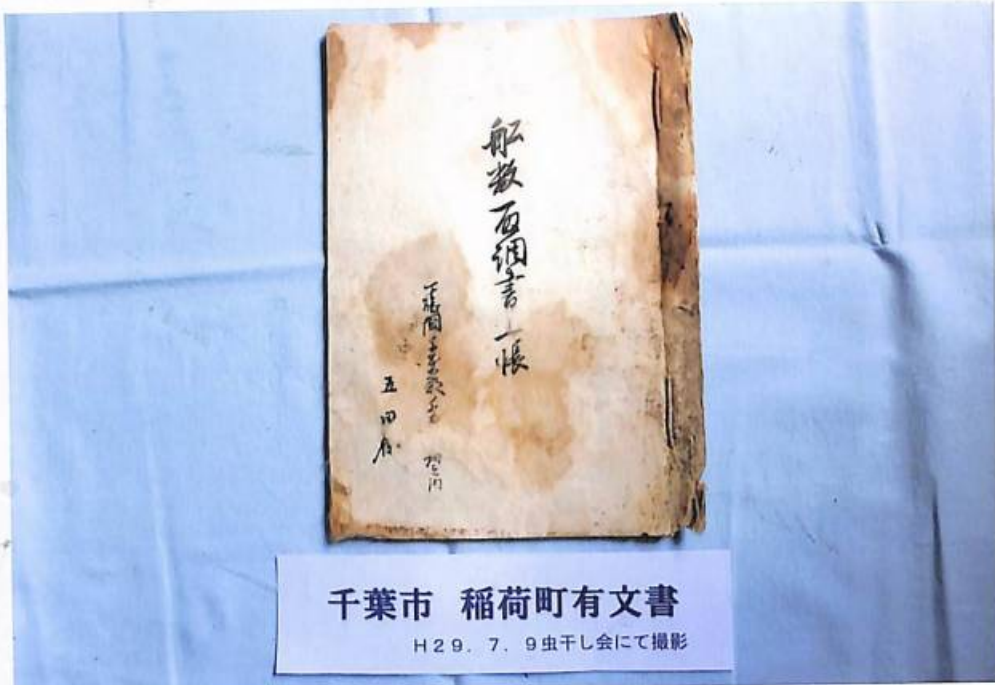
Handwritten Japanese text on two pages of a document, likely a tax record or receipt. The text is written in cursive (sōsho) style.

千葉市 稲荷町有文書

H29. 7. 9虫干し会にて撮影

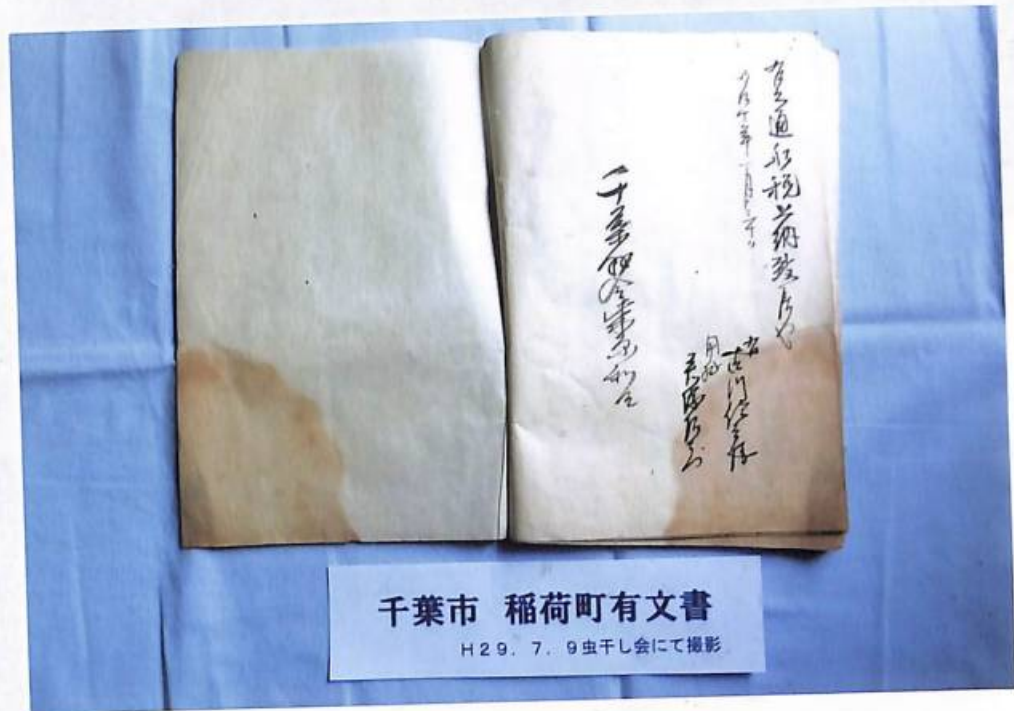
41

6



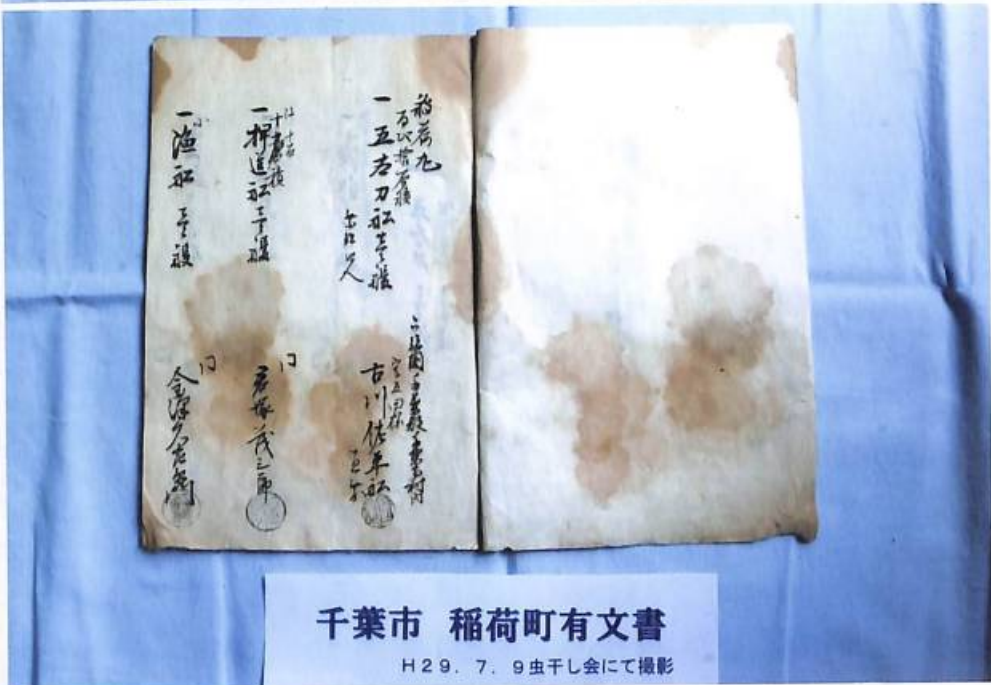
5950

千葉市 稲荷町有文書
H29. 7. 9虫干し会にて撮影



5955

千葉市 稲荷町有文書
H29. 7. 9虫干し会にて撮影



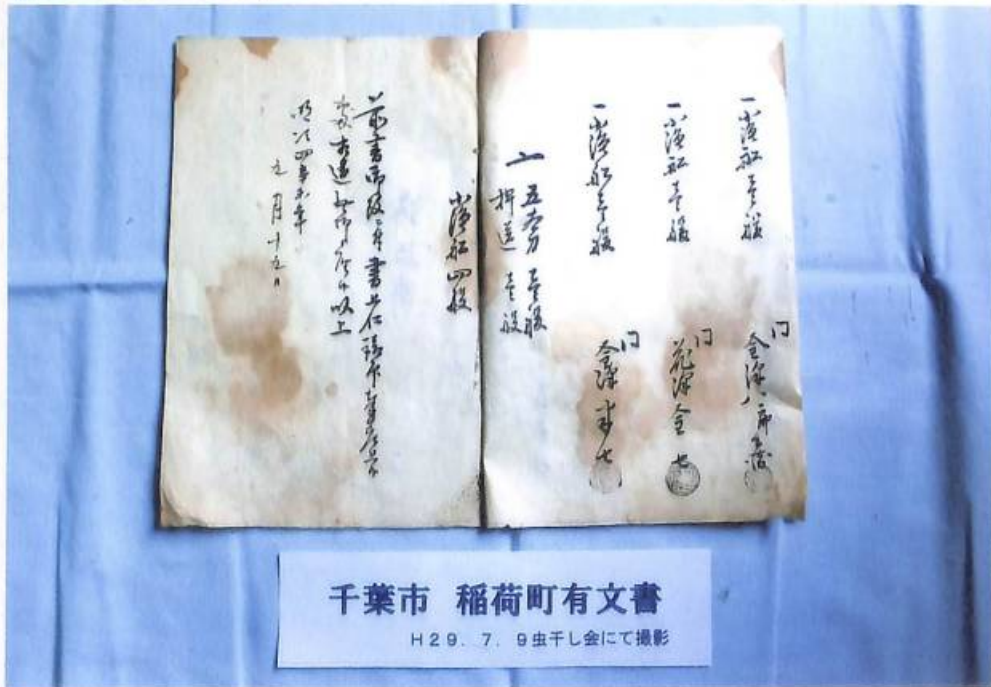
51

千葉市 稲荷町有文書
H29. 7. 9虫干し会にて撮影



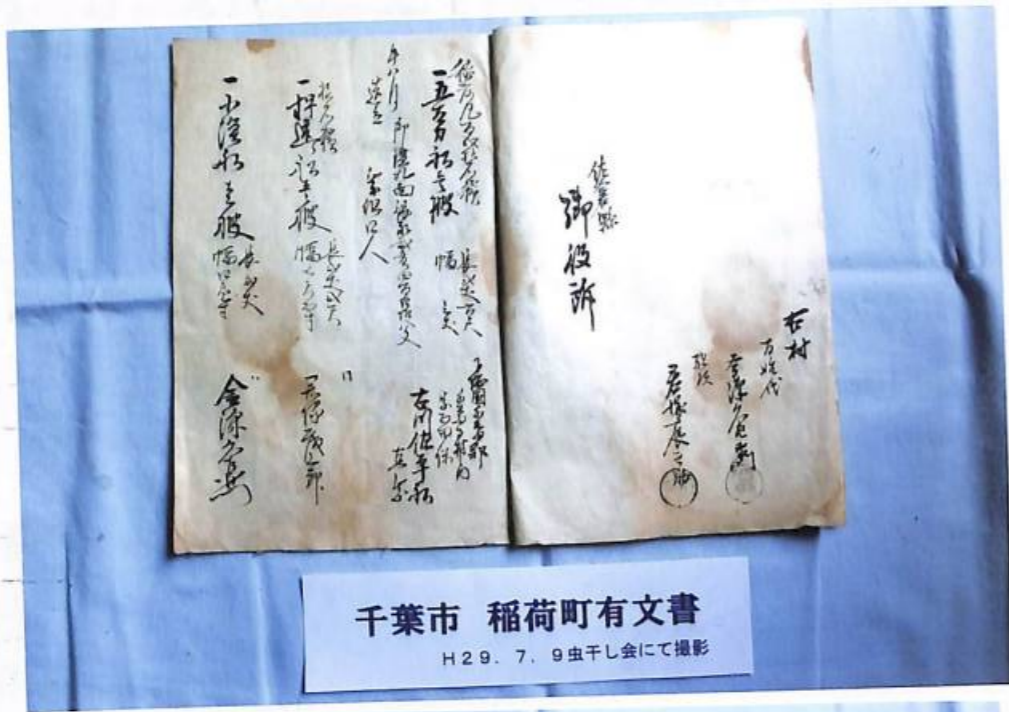
49

千葉市 稲荷町有文書
H29. 7. 9虫干し会にて撮影



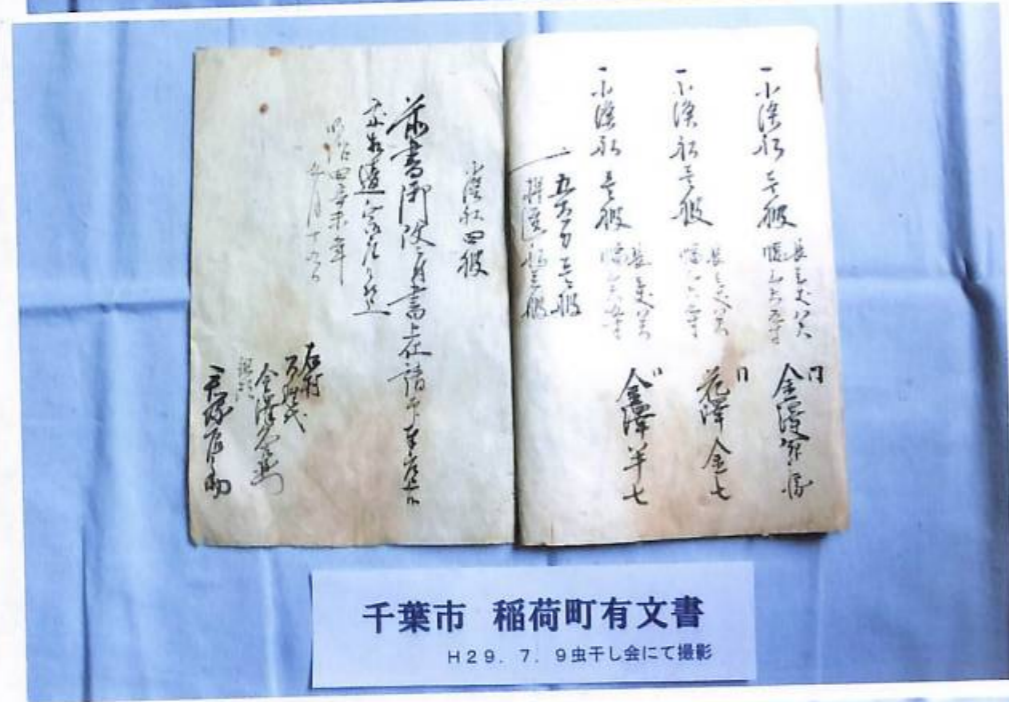
52

千葉市 稲荷町有文書
H29. 7. 9虫干し会にて撮影



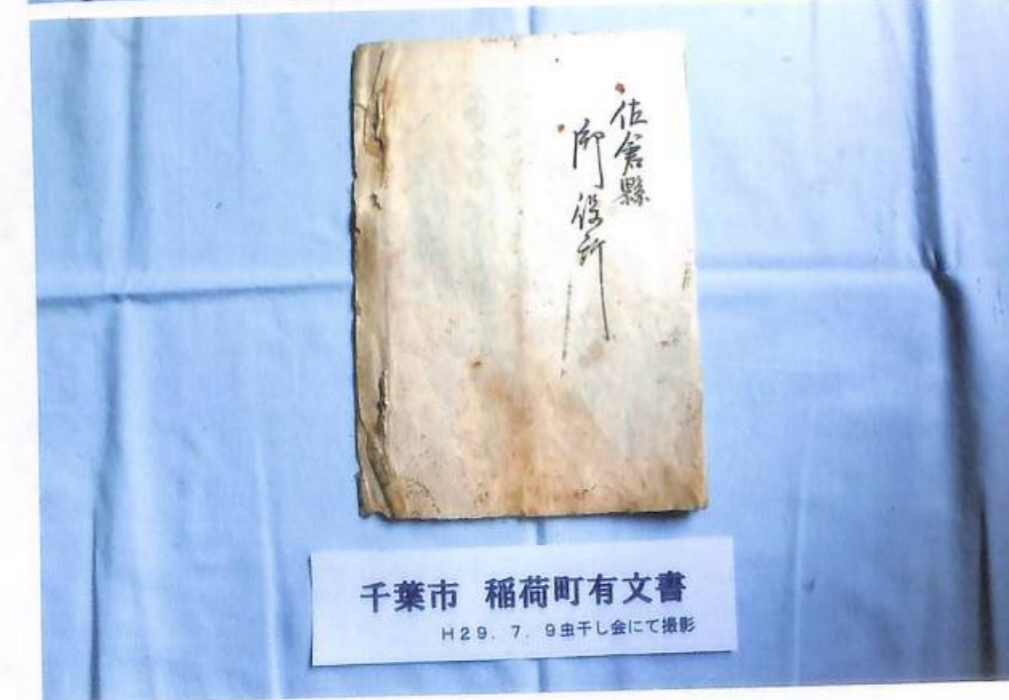
3953

千葉市 稲荷町有文書
H29. 7. 9虫干し会にて撮影



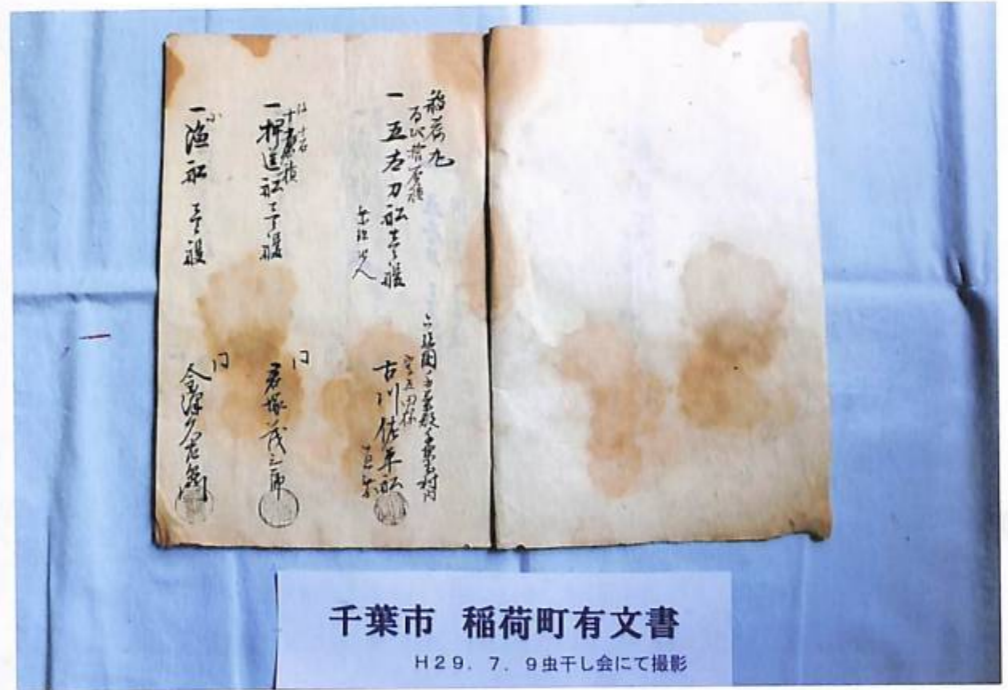
54

千葉市 稲荷町有文書
H29. 7. 9虫干し会にて撮影



55

千葉市 稲荷町有文書
H29. 7. 9虫干し会にて撮影



千葉市 稲荷町有文書
H29. 7. 9虫干し会にて撮影